

## ご存知ですか？臨床工学技士のお仕事

病院には様々は職種の方が働いていますが、医療技術職の一つに臨床工学技士という仕事があります。

臨床工学技士とは、「医師の指示のもとに生命維持管理装置の操作および保守点検を業とする者」とされ、具体的には、血液浄化業務、呼吸療法業務、心臓カテーテル検査業務、内視鏡業務など、医療機器を用いる分野で活躍しています。

当院では、主に院内の医療機器の点検管理と、循環器関連業務（心臓カテーテル検査・植込型ペースメーカー管理）を行っています。使用中の医療機器にトラブルが起こった時にも連絡を受け出動します。



### こんなことをやっています



#### AED (除細動装置)

心肺蘇生に使用するAEDは院内に6台あり、それらを定期的に点検し、使用に備えています。

また、使用に関しての職員への教育もしています。



#### ペースメーカー 外来

ペースメーカー外来で、患者さんの体内に入っているペースメーカーがちゃんと動いているかどうかを、プログラマという機械を用いて確認します。



#### 人工呼吸器 (じんこうこきゅうき)

呼吸ができない患者さんの呼吸を助けるための人工呼吸器。

人工呼吸器の異常は患者さんの命に直結するため、使用中は1日1回病室に伺って点検しています。

これら医療機器を使用する職員への教育もしています。

♪ お問い合わせ 検査科 ♪

♪ たまなんミ二通信をご希望の方は、患者支援センター地域連携部門までお問い合わせください ♪

# 今月の医療 耳鼻咽喉科

## 咽喉頭異常感症

のどに異常感を感じますが、耳鼻咽喉科の診察では訴えに見合う病変が咽喉頭や喉頭に認められない病態を総称した病気です。精神的要因としてはストレス、がん不安などが多いと言われています。



### 症状の現れ方

多くはのどに何かつかえる感じを訴えます。唾などを飲み込んだ時がほとんどです。しかし、食べたり飲んだりする時にはその症状は感じません。

#### 訴えの一例



(25歳女性)

いつも食道やのどのあたりに圧迫感や何かひっかかっているような感じがして不愉快な毎日です。食べ物が飲み込みにくい感じがして、外出中も不快感が気になります。意識的につばを呑み込んだり、うがいをしたりしても効果はありません。のどに意識が集中し、仕事に支障が出ています。

### 検査と診断

耳鼻咽喉科的診察と鼻腔・喉頭のファイバースコープ（内視鏡）検査、頸部(けいぶ)の診察などを行い、疑われる原因を選別してから適宜、血液検査、CTなどの画像検査、食道・胃ファイバースコープ（内視鏡）検査などを追加して行います。

### 治療の方法



治療は経過観察や、時には精神安定剤の投与もします。症状が続き、違和感が改善しない時でも、異常のないことを確認してもらうと良くなることもあります。

「病は気から」という言葉がありますが、気持ちが先行しすぎると、ならなくていいものまでなってしまうことがあります。喉のつかえは昔からよくあった症状のようで、江戸時代の医学書にも記載されています。

もちろん、腫瘍や炎症が認められることもありますから、耳鼻咽喉科を受診して、採血などで炎症所見を調べたり、喉頭ファイバーやCTなどで腫瘍性病変を否定したりすることは大事なことです。

また、喫煙は咽喉頭・喉頭・食道癌などの危険因子です。癌だけでなく、のどの異常感の原因となる事もあるため禁煙は大事な治療のひとつです。



耳鼻咽喉科 医員 佐々木 大輔

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずは、かかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。